

## 令和4年度学校経営計画

令和3年度～令和5年度(2年目)

校番	107	学校名	西条特別支援学校	校長氏名	吉迫 基全	全日制	本校
----	-----	-----	----------	------	-------	-----	----

### 1 教育目標

児童生徒の「知りたい」「伝えたい」「やってみたい」という思いを引き出し、『地域社会と協働しチャレンジし続ける児童生徒』を育成する。

### 2 育てたい（幼児・児童）生徒像

小学部	友だちと協力し、自分の役割を果たすことができる児童
中学部	より良い人間関係をつくり、自分で判断し行動できる生徒
高等部	他者と協働し、社会の中で役割や責任を自覚しながら行動できる生徒

### 3 中期（3年間）経営目標 ※教育活動その他の学校運営に関する目標

- (1) 個に応じた主体的な学びを促す教育課程の編成に取り組む学校
- (2) 児童生徒の自立と社会参加の実現に向け、安全に安心して学校生活を送ることができる学校
- (3) 社会の変化に柔軟に対応し、地域と協働しながら組織的にチャレンジし続ける学校

### 4 短期（本年度）経営目標及び行動計画等 ※中期（3年間）経営目標を達成するための本年度の経営目標及び行動計画等

中期（3年間）経営目標				
（1）個に応じた主体的な学びを促す教育課程の編成に取り組む学校				
短期（本年度）経営目標	本年度行動計画	評価指標	現状値 (前年度)	目標値
児童生徒の主体的な学びを促す教育課程の編成に全教職員が関わる。	・年3回の教科会を通して、教育課程や年間指導計画、様式等を検討する。 ・Ⅲ類型は系統性を意識して小中高縦割り教育課程を検討する。	教職員アンケート等による教育課程編成に関わった自己評価のうち肯定的評価の割合	—	60%
主体的・対話的で深い学びの視点から授業改善を行う。「伝える力」に重点を置き、今後の地域・社会との協働等につなげる。	実態把握の仕方を構築するとともに、カリキュラムマネジメントと地域・社会との協働等が実現できるよう、「伝える力」を高めることに繋がる単元計画を作成し、授業を行う。	教職員アンケート等による自立活動の指導における改善度の自己評価割合と児童生徒の「伝える力」についての年度末評価	—	60%

中期（3年間）経営目標				
（2）児童生徒の自立と社会参加の実現に向け、安全に安心して学校生活を送ることができる学校				
短期（本年度）経営目標	本年度行動計画	評価指標	現状値 (前年度)	目標値
児童生徒が他者との関わりを意識する中で、主体的にあいさつに取り組むことができる指導を充実させる。	・児童会生徒会を中心として、全校で相手を意識した挨拶を推進する取組を考え実行する。 ・児童生徒・保護者・外部学校関係者へアンケートを取り、児童生徒の指導に活用する。	児童生徒・教職員・保護者・外部学校関係者(隣接施設、学校訓練士、学校評議員など)へのアンケートによる肯定的評価の割合	60%	80%
想定される危機に対する安全行動や安全に配慮した学習の場づくりを児童生徒と共に考える。	・教室内の危険箇所、避難時の注意する場所等を児童生徒と共に調べ(教職員は、年3回の安全点検を実施)、共有していく。 ・体験型の避難訓練を計画することで、児童生徒が自ら考え行動できる内容を取り入れ実施する。 ・各避難訓練実施の事前・事後にアンケートまたはワークシートを活用し実施しての比較を行う。	・計画した各避難訓練において児童生徒が自ら考え安全行動する場面の設定の割合 ・各避難訓練実施後の教職員アンケート及び学校評価アンケートによる肯定的評価の割合	—	70%
児童生徒の自立と社会参加につながるキャリア教育の推進・進路指導の充実に取り組む。	キャリア教育の視点で、進路だより・進路コーナー・研修の充実を図ると共に将来への見通しが持てるような進路情報を児童生徒・保護者・教職員へ提供する。	キャリア教育の推進に関わる教職員アンケート等による自己評価の肯定的評価の割合。	—	70%

中期（3年間）経営目標

(3) 社会の変化に柔軟に対応し、地域と協働しながら組織的にチャレンジし続ける学校

短期（本年度）経営目標	本年度行動計画	評価指標	現状値 (前年度)	目標値
役割を担い活動を広げられるよう ICT を活用した表出や表現を増やす。	児童生徒に応じた一人1台端末の操作方法を確立するとともに端末やアプリの活用モデルを共有する。	操作方法確立及び活用モデルの実施の割合（検討、確立、実施の平均値）	—	70%
地域との交流・協働の取組を推進する。	授業やSDGSの取組を情報発信し、リモート等を活用しながら、地域との交流や協働につなげる。	学校行事やこころのいずみ作品展、地域交流における地域の人や保護者等へのアンケートによる肯定評価の割合	—	70%

働き方改革に関する短期（本年度）目標

(1) 「学校の働き方改革」の目的を教職員一人一人が理解し、自分事として捉え、学校全体で取り組む学校

短期（本年度）経営目標	本年度行動計画	評価指標	現状値 (前年度)	目標値
「学校の働き方改革」の目的を教職員一人一人が理解し、担当業務を自分事として捉え、学校全体で取り組む。	分掌業務遂行表を可能な限り校内で統一し、見える化をする。職員全員が業務について確認し、平準化を図ったり検討したりする材料とする。	年2回の教職員アンケートによる肯定的な評価の変容と割合	—	80%

別紙：現状分析

	強み	弱み
内部環境	<ul style="list-style-type: none"> <li>平成21年度から、東広島市を就学区域として、自宅からの通学生を受け入れている。</li> <li>看護師3名が配置され医療的ケアの体制が整っている。</li> <li>公開連続講座等の実施、地域の小中学校から肢体不自由教育に関する研修や相談の依頼に対応しセンター的機能の役割を果たしている。</li> <li>多様な児童生徒実態に対応した教育課程を設定している。</li> <li>海外交流姉妹校として、タルバッカ特別支援学校と継続的な交流を行っている。</li> <li>平成26年9月、ユネスコスクールとして加盟承認された。</li> <li>各教室への提示装置類の配置や安定した通信環境などICTの環境整備が進んだ。</li> <li>多様な活動でのリモート学習が増加した。</li> <li>ICT活用に関わり、児童生徒個々に応じた入出力支援装置が概ね整った。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>入院治療を目的とする短期の児童生徒の転出入が多く、学級編制が年度途中に変わることが多くある。</li> <li>学校全体の学級数も増加しており、普通教室や特別教室が不足している。</li> <li>特別支援学校教諭免許状の保有率が100パーセントではない。</li> <li>転出入や多様な教育課程による事務的な業務が膨大である。</li> <li>校舎2階からの避難経路が設置されていない。</li> <li>敷地内や校内への侵入を防ぐセキュリティ対策が不十分である。</li> <li>一人1台端末を活用した児童生徒の表出、表現が不十分なところがある。</li> <li>児童生徒の学びを広げる端末やアプリ等の活用が不十分なところがある。</li> </ul>
外部環境	<ul style="list-style-type: none"> <li>地域の小・中学校から特別支援教育に関する講師派遣依頼の要請や公開講座の参加人数が増えてきており、東広島市の肢体不自由特別支援学校としての認知が進んでいる。</li> <li>病院やスポーツ交流センターおりづる等が隣接しており、医師やPTやOT等の専門家の助言を受けることができる。</li> <li>近隣に広島大学や西条農業高等学校等があり、地域資源に恵まれている。</li> <li>東広島市自立支援協議会が設置されており、本校も参加し地域の情報を得ることができる。</li> <li>平成21年度から「こころのいずみ作品展」を東広島市内で毎年開催し、多くの来場者が訪れ好評を得ている。</li> <li>筑波大学桐ヶ丘特別支援学校と遠隔授業を始めた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>希望に応じた進路先が少ない。</li> <li>公共交通機関の利用が不便である。</li> <li>新型コロナ感染症対策等で、外部の来校が制限される時がある。</li> </ul>